



# MUFG通信

2015年度通期(2015年4月1日~2016年3月31日)

三菱UFJフィナンシャル・グループ

URL : <http://www.mufg.jp/>

証券コード : 8306



# 社長メッセージ

株主の皆さまには、平素より格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

私から、2015年度の業績および今後の取り組みについてご説明します。



## ▶ 2015年度の業績について

2015年度は、低金利環境の長期化や円高の進行、また年度後半以降は相場環境も不安定となりました。こうした影響を受け、国内外の貸出や預金収益が減少したほか、運用商品販売も低調に推移したため、業務粗利益は前年度比858億円減少の4兆1,432億円となりました。営業費は、海外規制対応などに伴う経費増加はありましたが、抑制的な経費運用に努め、前年度比ほぼ横這いとなりました。この結果、実質業務純益は、前年度比870億円減少の1兆5,579億円となりました。

与信関係費用総額は、大口個社並びに資源・エネルギー価格の下落を主因とする与信費用の増加により935億円増加の2,551億円となりました。以上により、経常利益は前年度比1,735億円減少の1兆5,394億円、親会社株主に帰属する当期純利益は、823億円減少の9,514億円となりました。

経営の健全性を表す自己資本比率については、2016年3月末の普通株式等Tier1比率が11.63%と、現在の金融規制に照らして十分な水準を維持しています。また海外資産を含めた不良債権比率（貸出金に占めるリスク管理債権の比率）は1.45%と前年度末比では0.04%増加しましたが、引き続き低い水準にあります。

こうした業績を踏まえ、2015年度の期末配当を予定通り9円、中間配当と合わせて年間18円とし、また中間期に引き続き1,000億円を上限とする自己株式取得の実施を決定しました。

## ▶ 中期経営計画の進捗について

2015年度は、昨年4月にスタートした中期経営計画の初年度でしたが、基本方針である「お客さま起点」「グループ起点」「生産性向上」の3つの考え方を軸に、持続的な成長と生産性の向上につながる事業モデルの変革を進めました。リテール・法人分野では、銀行・証券間の連携態勢をさらに強化し、大型の株式上場案件において、引受シェアや販売額の面で成果を挙げることができました。また、海外では、今後も高い経済成長が期待できるフィリピンの銀行セキュリティ・バンクへ約20%の出資を行い、アジアにおける商業銀行業務の強化を進めました。

## ▶ 持続的な成長に向けて

中国の経済減速を発端とする新興国の経済成長の鈍化や日本銀行のマイナス金利政策導入など、当社を取り巻く経営環境は、中期経営計画の発表時に比べ厳しい状況にあります。こうした環境に対処するため、私どもMUFGは、強みであるグループ総合力を発揮し、お客さまのニーズに的確に応える「真に付加価値のある」ご提案やサービスを提供することで、お取引の幅をさらに広げ、収益の多様化につなげていきます。また、グループ経営資源の有効活用や、経費削減など、生産性向上に向けた各施策も着実に進めてまいります。

持続的な成長に向けて、揺らぐことなく「変革」を進め企業価値の向上に努めてまいりますので、今後とも一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2016年6月  
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ  
代表執行役社長兼グループCEO

平野信行

# 資本政策

## ▶ 資本政策の基本方針

MUFGは、「世界に選ばれる、信頼のグローバル金融グループ」の実現に向け持続的に成長するため、充実した自己資本を維持しつつ、「株主還元の一層の充実」、「収益力強化に向けた資本活用」を目指しています。

### ■ 健全性の維持

自己資本比率などで表される財務の健全性は金融・経済の礎として安定した経営が求められる金融機関にとってとても重要です。MUFGは、バーゼルⅢで求められる所要水準を充足していますが、引き続き財務基盤の強化・維持に努めます。

### ■ 成長に向けた投資

持続的な成長を実現するため、成長が期待できる事業や地域に対して、効率性を十分に検証した上で資本を投入していきます。

### ■ 配当・自己株式の取得

MUFGは、利益成長を通じて、安定的・持続的に配当を増加させていくことを株主還元の基本方針としています。

また資本効率の向上に向けた自己株式の取得については、バーゼルⅢの規制水準を上回る十分な財務基盤があることを前提に、今後の成長に必要な資本を踏まえた上で、継続的に検討しています。



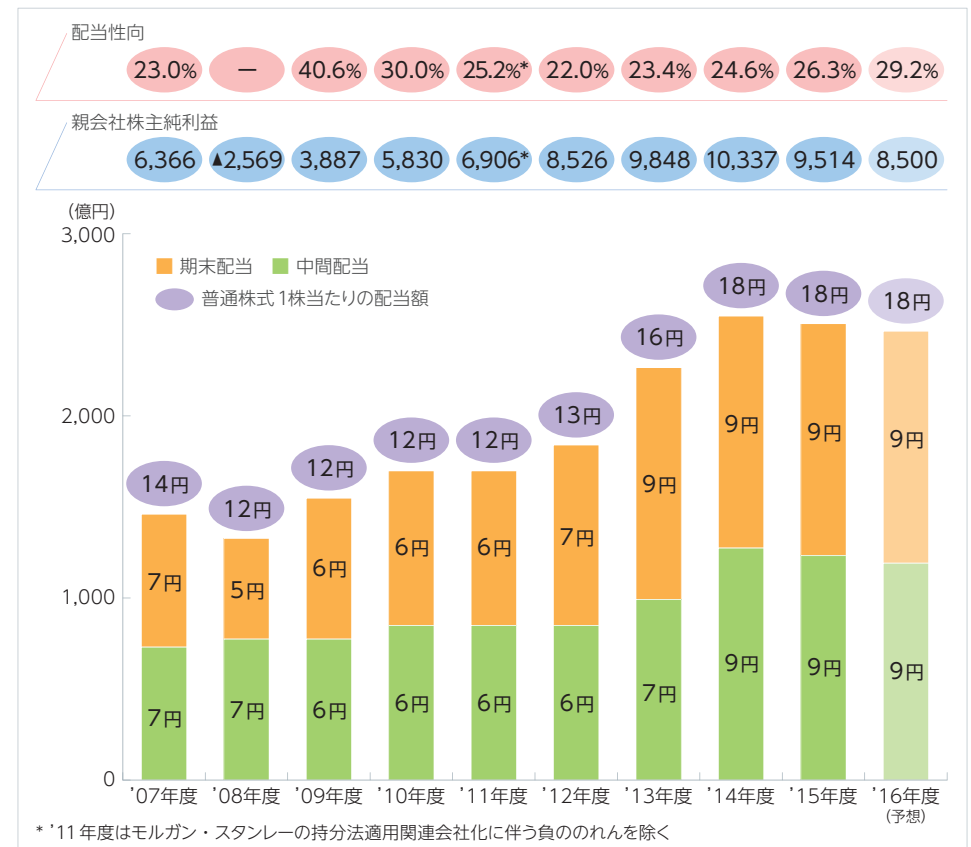
## ▶ 配当・自己株式取得の実績と予想

### ■ 2015年度の実績

2015年度の1株当たりの年間配当額は前年度と同額の18円と据え置きました。また、2015年11月に約1,000億円の自己株式を取得したほか、2016年5月にも1,000億円の自己株式取得を決定しました。

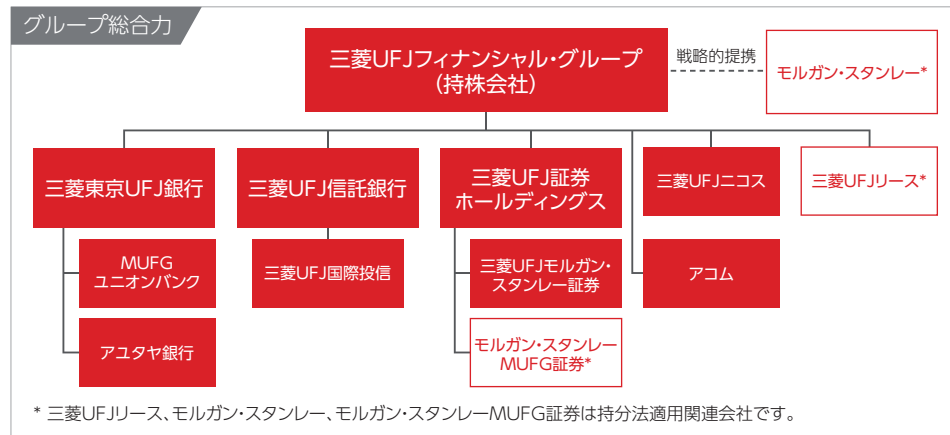
### ■ 2016年度の予想

2016年度の1株当たりの年間配当額は2015年度と同額の18円を予想しています。



# MUFGのグループ総合力

MUFGは、商業銀行・信託銀行・証券会社をはじめとしたグループ会社はもちろ、提携先との連携を通じて、お客さまに付加価値の高い金融サービスを提供しています。



## ▶ グローバルネットワークと充実した顧客基盤

世界約50カ国、約1,200拠点と、日本の金融機関随一の幅広いネットワークを通じて、世界各国で企業のお客さまのグローバルな金融ニーズにお応えしています。

また、国内でも個人・法人のお客さまとの幅広いお取引により、充実した顧客基盤を築いています。

### グローバルネットワーク



### 充実した顧客基盤

- 国内の個人のお取引口座数 **4,000**万口座
- 国内の法人のお取引先数 **40**万社

## セキュリティバンクと資本・業務提携

MUFGは、アジアを「第2のマザーマーケット」として位置づけ、商業銀行業務の基盤強化に向けた成長戦略を着実に実行しています。

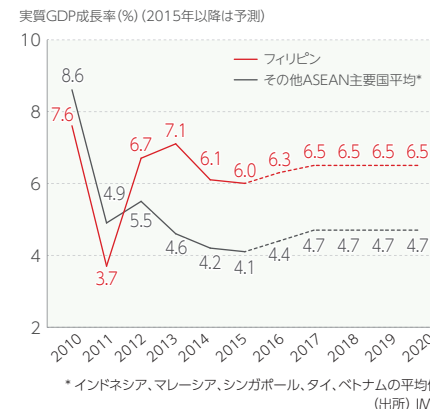
2016年4月、三菱東京UFJ銀行は、フィリピンの商業銀行Security Bank (セキュリティバンク)の約20%の株式を取得するとともに取締役を2名派遣し、持分法適用会社としました。フィリピンは近年、内需を中心に高い経済成長を実現し、今後もアセアン第2位の約1億人の人口を背景に長期的に成長することが期待されています。経済発展に伴う金融サービスの需要拡大も見込まれており、今回の資本・業務提携により、フィリピンの成長を取り込み、第2のマザーマーケットであるアジアにおける存在感の拡大をめざします。

### セキュリティバンクの概要

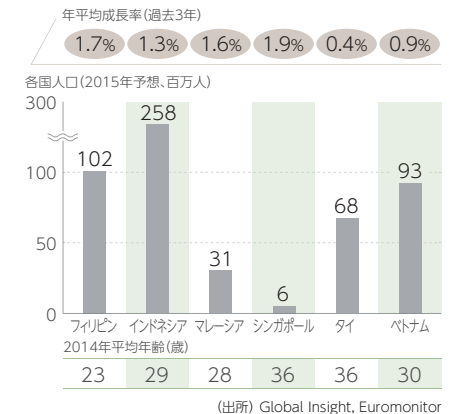
- ・商号：Security Bank Corporation
- ・設立：1951年
- ・代表者：Mr. Alfonso L. Salcedo, Jr. (President and CEO)
- ・従業員数：4,328名(2015年12月)
- ・支店数：262(2015年12月)
- ・時価総額：PHP152,968百万(US\$3,240百万) (2016年5月31日終値ベース)



### 堅実な経済成長



### ASEAN 第2位の人口大国



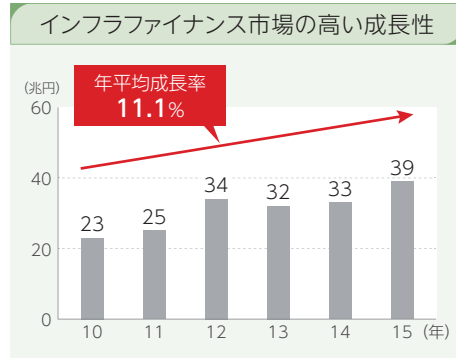
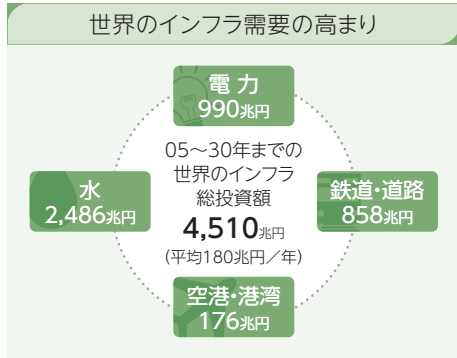
# MUFGのグループ総合力

## ▶ 日立キャピタルとの戦略的資本業務提携

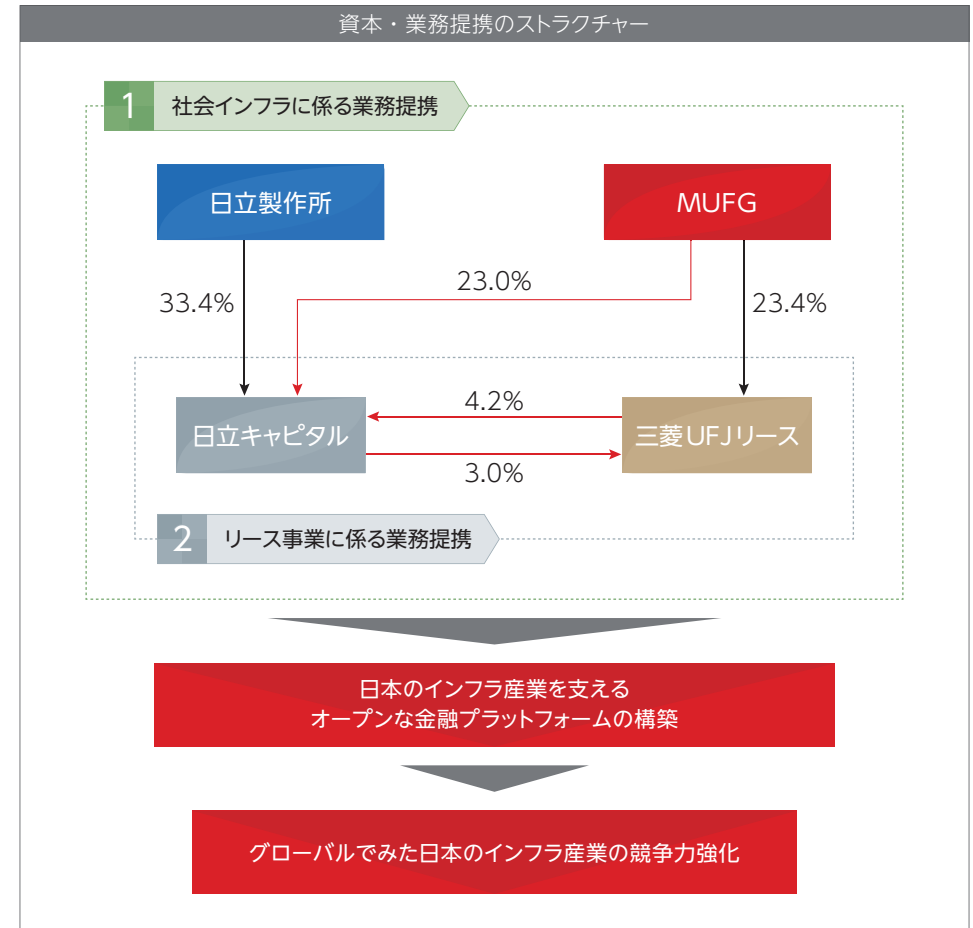
MUFGおよび三菱東京UFJ銀行、三菱UFJリースは、2016年5月に日立製作所および日立キャピタルと資本・業務提携を行うことで合意しました。\*

\* 関係当局の許認可、その他の契約上の諸条件の充足を前提として2016年8月ごろを目標に実行を予定

世界のインフラ市場は、受注をめぐる国際間競争も激化しています。特に、大規模かつ長期的なインフラ案件においては、ファイナンスがパッケージとして組み込まれることも多く、メーカーにおけるこれらインフラビジネスのニーズを金融面から支援する重要性が増えています。こうした状況に対応するため、金融機関が有するファイナンスアレンジ力とメーカーが有する技術力とを一体的に発揮する枠組みが必要となっています。



今般の提携により、三菱UFJリースおよび日立キャピタルは、互いの事業の成長および企業価値向上の実現のため、(i) 相互の事業基盤を有効活用し既存事業の強化を行うこと、(ii) 両者のノウハウやネットワークを活用し新たな事業機会を創出すること、(iii) 両者の強みを結集し、新たなソリューションの開発を行うことを目的に、具体的な協議を進めていきます。また、インフラ産業を金融面から支援するために、三菱UFJリースおよび日立キャピタルが主体となったオープンな金融プラットフォームの構築に向け、今後協議を進めていきます。



MUFGは今中期経営計画でも、国内にしっかりと軸足を置きつつ、グローバルな成長を取り込むとともに、事業モデルの進化・変革に取り組んでいます。高度化・多様化する企業のお客さまの経営課題や戦略に対し、銀行、信託銀行、証券、リースなどグループ会社が連携して最適な解決策をご提供することで、お客さまの事業の発展に貢献してまいります。

MUFGでは、ICT (Information and Communication Technology (情報通信技術) の略) を活用したさまざまなサービスを提供するとともに、ICTと金融を組み合わせる新たなサービスを提供する「Fintech\*」企業との連携にも取り組んでいます。

\* 「Fintech」はFinance (金融) とTechnology (技術) を合成した造語で、IT企業が新しい発想で提供する金融サービスを意味します。

## ▶ 最先端技術の利用

MUFGでは、ICTを活用したサービスを次々とスタートさせています。例えば、複数の言語を理解し、話す能力のある人型ロボット「NAO」を旅行客で賑わう三菱東京UFJ銀行成田空港支店に設置し、為替レートのご案内等で試行的に運用しています。また、三菱UFJ国際投信では、5つの質問に回答するだけでリスク許容度に応じたファンドを提案する「ロボ・アドバイザー」サービス「ポートスター」の提供を開始しました。



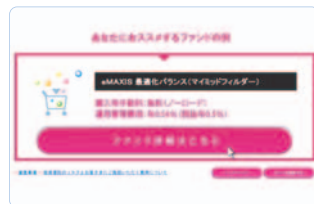
### ポートスターイメージ



プロファイリング(5つの質問)



診断結果



ファンドの提案

## ▶ イノベーション態勢強化に向けた取り組み

Fintechは、まず米国シリコンバレーで生まれました。ここでは、アイデアと技術を有するベンチャーが次々と金融サービスに参入しました。こうした情報の入手とビジネスでの活用を検討するため、MUFGは、2014年に当地にイノベーションセンターを開設し、情報収集やFintechとのネットワーキング等を開始しました。



イノベーションラボでのテレビ会議の様子

2016年1月には、東京に「イノベーションラボ」を開設しました。銀行組織から切り離されたオフィスで、既存業務にとらわれない革新的な新事業の創出、アイデアの迅速な具現化を図るとともに、オープンイノベーションの推進・加速をミッションとしています。2016年2月には、米国西海岸に加えて米国東海岸、シンガポールにもイノベーションセンターを開設し、現地外部企業と連携して革新的な金融サービスの創造に向け日々取り組んでいます。

## ▶ オープンイノベーションでの取り組み

MUFGでは、企業の枠組みを越えて社外からも広く知識・知見・技術を集めてイノベーションを起こす「オープンイノベーション」への取り組みを拡大しています。

2016年3月には、新たにFintech事業への参入を目指す企業に対して、MUFGグループの総力を挙げて、事業化に向けたステップを全面的に支援する邦銀初となるプログラム「Fintechアクセラレータ・プログラム\*」を立ち上げました。第1期生として、AIを活用した投資アルゴリズムによる事業展開をめざす企業やブロックチェーンを活用したポイント事業の構築をめざす企業など5社が参加しています。



\* メンターが助言・指導し、革新的なビジネスの早期立ち上げを支援する起業家向けプログラム

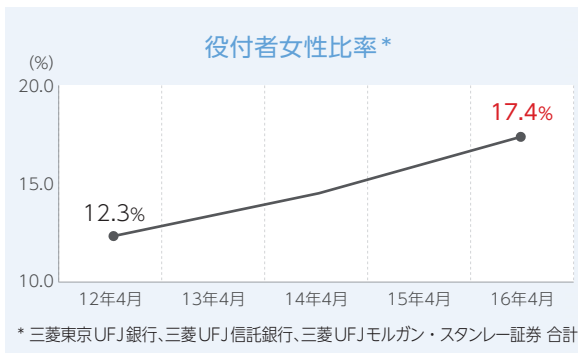
# クローズアップ～ダイバーシティへの取り組み～

MUFGでは、多様な国籍・価値観を持つ国内外の従業員が、モチベーションを高く持ち、成長し続けることで、お客さまにより付加価値の高いサービスを提供できるよう、さまざまな人材育成施策や人事制度改革に取り組んでいます。ここでは、日本におけるダイバーシティ(多様性)の受け入れと強化に向けた取り組みをご紹介します。

## ▶ 女性の活躍推進

ダイバーシティにおける喫緊の重要課題として、女性の活躍推進があげられます。MUFGでは、女性の国内での役付者比率の向上をめざし、グループ各社で女性の登用を積極的に推進しています。2016年4月現在の国内の女性役付者比率は17.4%まで向上しました。また、2016年5月、三菱東京UFJ銀行では米国と香港で海外採用の女性がそれぞれ1名、三菱UFJ信託銀行では国内採用の女性1名が役員に登用されました。

さらに、女性社員同士のネットワークを構築する場の提供や、女性向けのキャリア研修やメンター制度、職種などコース転換や再雇用制度などさまざまな施策を実施しています。



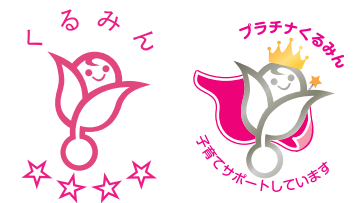
## ▶ ワークライフバランスの充実

「従業員満足度の向上は仕事に反映され、お客さま評価の向上につながる」、「仕事の充実が社会や家庭に反映され、地域や社会への貢献につながる」という考えのもと、MUFGでは、ワークライフバランスの推進により、より働きがいのある職場づくりをめざしています。

### 仕事と育児の両立支援

MUFGは、産休・育児などに入る社員に対する休職前研修や復職前後の研修のほか、託児補助・ベビーシッター利用補助、短時間勤務などの制度を通じて、従業員の仕事と育児の両立をサポートしています。これらの取り組みが評価され、グループ主要各社は、2016年2月「子育てサポート」企業として、次世代育成支援対策推進法に基づく認定(くるみん認定)を取得しました。三菱東京UFJ銀行は中でもさらに高水準の取り組みを行っている企業として「プラチナくるみん」の認定を取得しました。

また、日本では長期の育児休業を取得する男性が少ないため、男性社員にも有給の短期育児休業を認めているほか、社内冊子で育児休業取得者の事例を紹介するなど、男性の育児参画を積極的に推進しています。



### 仕事と介護の両立支援

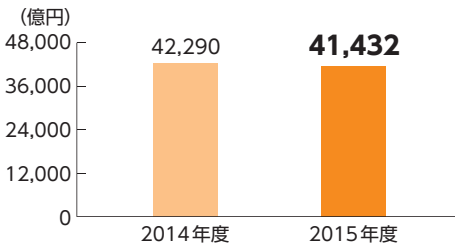
少子高齢化が急速に進む日本では、「仕事と介護の両立」は従業員の誰もが直面しうる問題です。MUFGでは、従業員が「仕事と介護の両立」を円滑に行えるよう、問題に直面する前から備えておくことの重要性や介護そのものについての理解を深めるためのセミナーを開催しています。

# 2015年度決算ハイライト

## ✓ 決算のポイント

- 親会社株主に帰属する当期純利益は、通期目標の9,500億円を上回る9,514億円
- 貸出金および預金は、ともに国内外で増加
- 普通株式等Tier1比率は、11.63%と十分な水準を確保

### 連結業務粗利益



前年度比858億円減少しました。低金利環境の長期化や円高の進行により国内外の資金収益が減少したほか、不安定な相場動向もあり運用商品販売も低調に推移しました。

### 与信関係費用総額\*

資源エネルギー関連の与信費用発生や、個別貸倒引当金の増加もあり前年度比935億円増加しました。

\* 与信関係費用(信託勘定) + 一般貸倒引当金繰入額 + 与信関係費用(臨時損益) + 貸倒引当金戻入益 + 偶発損失引当金戻入益(与信関連) + 償却債権取立益

### 損益の状況(連結)

● 連結業務粗利益(信託勘定償却前)	
営業費(△)	
連結業務純益(一般貸倒引当金繰入前・信託勘定償却前)	
● 与信関係費用総額(△は費用)	
経常利益	
親会社株主に帰属する当期純利益	

### 資産・負債の状況(連結)

資産の部合計	
貸出金(銀行勘定)	
有価証券	
うち国債	
負債の部合計	
預金	
純資産の部合計	

### 自己資本の状況(連結)

普通株式等Tier1比率	
Tier1比率	
総自己資本比率	

(単位: 億円)

2014年度	2015年度
42,290	41,432
25,841	25,852
16,449	15,579
△1,616	△2,551
17,130	15,394
10,337	9,514

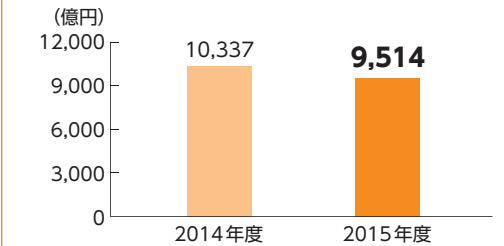
(単位: 億円)

2014年度末	2015年度末
2,861,497	2,983,028
1,093,683	1,137,563
735,381	699,938
352,106	283,571
2,688,622	2,809,161
1,533,574	1,609,650
172,875	173,867

### 営業費

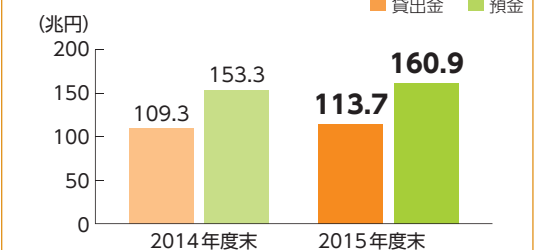
前年度比ほぼ横這いとなりました。海外規制対応に伴う経費の増加はありましたが、国内での抑制的な経費運用に努めました。

### 親会社株主に帰属する当期純利益



前年度比823億円減少し、9,514億円となりました。

### 貸出金・預金



貸出金残高は、国内・海外ともに増加し、前年度末比4.3兆円の増加となりました。預金残高も、法人等預金の増加を主因に、前年度末比7.6兆円の増加となりました。

### 自己資本比率(バーゼルⅢ)

普通株式等Tier1比率\*は、11.63%と引き続き十分な水準を維持しています。

\* 普通株式等Tier1比率 = 中核的な自己資本(資本金・剰余金) ÷ リスク・アセット

(注) 業績説明に使用している計数は、各々単位未満を切り捨てて表示しています。従って、表中のある項目の計数と他の項目を加減計算した結果とが一致しないことや、説明文中の増減数値とグラフ・表中の計数を加減計算した結果とが一致しないことがあります。



# MUFGからのお知らせ

MUFGでは、日頃ご支援いただいている株主さまを対象に、下記のとおりセミナーを開催いたします。なお、当社株式を長期に保有いただいている株主さまへの感謝として、ご応募いただいた方のうち、当社株式を5年超保有\*の株主さまの当選倍率を通常より2倍に優遇させていただきます。

\*中間期末日および期末日の株主名簿に連続11回以上記載

## 1 動画配信

経済セミナーの様子を当社ホームページにて公開します。詳細は以下をご覧ください。

- ▶ **リンク先情報**  
当社ホームページ内『動画配信』(<http://www.mufg.jp/investors/movie/>)
- ▶ **ユーザー名** ▶ **パスワード**  
mufg 201610

## 2 開催概要

募集対象者 …………… 2016年3月末時点で当社株式をお持ちの株主さま  
(ご同伴は1名さままで可)  
参加費 …………… 無料

## ① 経済セミナー(東京・大阪・名古屋)

開催日 募集人数	<b>【東京】</b> 東京都千代田区	2016年10月13日(木)	各回380名
	<b>【名古屋】</b> 愛知県名古屋市中区	2016年10月19日(水)	各回150名
	<b>【大阪】</b> 大阪府大阪市中央区	2016年10月20日(木)	各回200名
時間	[午前の部] 10:30 ~ 12:00頃 [午後の部] 14:00 ~ 15:30頃		
開催場所	各地域のグループ会社または外部の会議室		
内容	テーマ:「内外の経済・金融を展望する」(仮題)		
	講師:三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 研究理事 五十嵐 敬喜氏		



五十嵐 敬喜氏

## ② 為替相場セミナー(東京)

開催日 募集人数	2016年10月6日(木)	380名	時間	13:30 ~ 15:00頃
開催場所	グループ会社の会議室(東京都千代田区)			
内容	テーマ:「円相場の現状と見通し」(仮題) 講師:株式会社三菱東京UFJ銀行グローバルマーケットリサーチ チーフアナリスト 内田 稔氏 (円相場の現状と見通しについて基本的な内容を中心に解説します) ※今回は会場の都合によりディーリングルーム見学会はありません。			

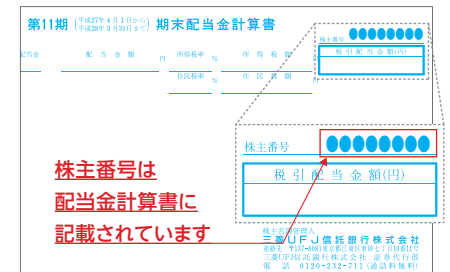
## 3 応募要領

応募方法: 同封の「MUFG株主セミナー参加申込書」に必要事項をご記入の上、ご投函ください。

**締め切り 2016年7月28日(木) 消印有効**

### ご記入要領

- ご希望のセミナーおよび開催日時を**いずれか1つ**選択してください(**複数選択、無選択は無効**)。
- 株主さまのご住所、お名前(ふりがなを含む)、お電話番号、株主番号(同封の「配当金計算書」または「配当金領収証」の右上8桁の番号)をご記入ください。
- ご同伴者さまがいらっしゃる場合は、その方のご住所、お名前(ふりがなを含む)もご記入ください。
- 個人情報保護シールをはがし、折り曲げてしっかりと貼り付けてご投函ください。



抽選の上、当選された株主さまには2016年9月上旬にご招待状をお送りいたします。

### ◎ご注意◎

- 当日の受付時刻および場所等の詳細につきましては、当選された株主さまのみにご案内いたします。
- 開催場所までの往復の交通費は各自でご負担いただきます。
- 応募時に必要事項の**記入漏れ**があった場合には、**無効**となりますのでご注意ください。
- やむを得ない理由で中止や内容変更となる場合がございます。

お問い合わせ先: 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ

**MUFG株主倶楽部**  
専用デスク **0120-321-629**  
(通話料無料)

代表電話 **03-3240-8111**  
(通話料有料)

受付時間: 土・日・祝祭日を除く9:00~17:00

# 会社情報 / 株式情報

## 取締役・執行役 (2016年6月29日現在)

取締役	取締役	執行役	執行役
取締役 園 潔	取締役 島本 武彦	代表執行役 園 潔	執行役専務 荒木 三郎
取締役 長岡 孝	取締役* 川本 裕子	代表執行役 副会長 長岡 孝	執行役専務 三毛 兼承
取締役 池谷 幹男	取締役* 松山 遙	代表執行役 副会長 池谷 幹男	執行役専務 徳成 旨亮
取締役 平野 信行	取締役* 岡本 園衛	代表執行役 社長 平野 信行	執行役専務 吉川 英一
取締役 黒田 忠司	取締役* 奥田 務	執行役専務 村林 聡	執行役専務 濱本 晃
取締役 徳成 旨亮	取締役* 川上 博	執行役専務 岡本 純一	執行役専務 安田 正道
取締役 安田 正道	取締役* 佐藤 行弘	執行役専務 廣田 直人	執行役専務 村上 敦士
取締役 小山田 隆	取締役* 山手 章	執行役専務 黒田 忠司	執行役専務 吉藤 茂

\*取締役のうち、川本 裕子、松山 遙、岡本 園衛、奥田 務、川上 博、佐藤 行弘、山手 章の各氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。

## 株式事務のご案内

定時株主総会基準日	3月31日
定時株主総会	6月下旬
配当金受領株主確定日	期末配当金 3月31日 / 中間配当金 9月30日
公告掲載方法	当社の公告は電子公告により行っております。 電子公告掲載URL : <a href="http://www.mufg.jp/">http://www.mufg.jp/</a> ただし、やむを得ない事由により、電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
上場証券取引所	東京、名古屋、ニューヨークの各証券取引所
株式事務取扱場所	株主名簿管理人 (特別口座の口座管理機関)
	事務取扱場所
	お問い合わせ先・郵便物送付先

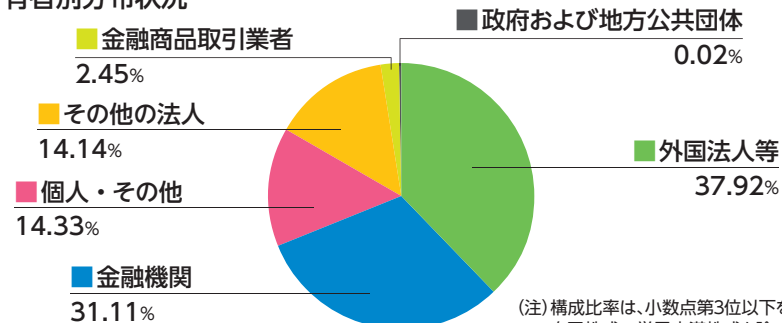
## ■ 株式に関するお手続き

住所・氏名など届出事項の変更、配当金振込先の指定、買取請求その他各種お手続き	<ul style="list-style-type: none"> <li>証券会社の口座に当社株式が記録されている株主さま原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、お取引の証券会社等にお問い合わせください。</li> <li>特別口座に当社株式が記録されている株主さま上記三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。</li> </ul>
未受領配当金の支払	三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いします。

## 株式の状況 (普通株式) (2016年3月31日現在)

■ 株式の状況	発行済株式の総数	14,168,853,820 株
	株主数	782,622 名

## ■ 所有者別分布状況



## ■ 大株主

順位	株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
1	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	748,648,100	5.42
2	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	540,923,500	3.92
3	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	223,278,300	1.61
4	STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	219,174,744	1.58
5	THE BANK OF NEW YORK MELLON SA/NV 10 (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	218,600,440	1.58
6	STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	188,599,978	1.36
7	THE BANK OF NEW YORK MELLON AS DEPOSITARY BANK FOR DR HOLDERS (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	184,158,625	1.33
8	日本生命保険相互会社	182,072,553	1.32
9	日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (明治安田生命保険相互会社・退職給付信託口)	175,000,000	1.26
10	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口6)	162,325,700	1.17

(注) 1. 持株比率は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。  
2. 普通株式の持株比率は、自己株式 378,088,933 株を除いて算出しております。  
3. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(明治安田生命保険相互会社・退職給付信託口)につきましては、明治安田生命保険相互会社が退職給付信託として信託設定している普通株式であり、その議決権行使の指図権は明治安田生命保険相互会社が留保しております。

## ■ 中長期的にめざす姿

世界に選ばれる、信頼のグローバル金融グループ  
-Be the world's most trusted financial group-

### 1. お客様の期待を超えるクオリティを、グループ全員の力で

お客様視点を中心に、グローバルに変化する多様なニーズを逸早くとらえ、グループ全員の力で応えていく。社員一人ひとり・一社一社が専門性を極め、グループ一体となって連携・協働し、世界水準のトップクオリティを追求する。

### 2. お客様・社会を支え続ける、揺るぎない存在に

変化の激しい時代においても、お客様の資産を守り、日本社会と世界経済の健全な成長を支える。一人ひとりが築く信頼と、グループ全員で作る強固な経営基盤で、最も信頼される頑健な存在であり続ける。

### 3. 世界に選ばれる、アジアを代表する金融グループへ

これまで培ってきた強みを活かし、日本はもとより、アジア、そして世界においても選ばれる存在となる。多様化・ボーダレス化する社会で、変化へ積極的に対応し、一人ひとりが成長・活躍できる組織として進化を続ける。

## 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ

〒100-8330 東京都千代田区丸の内2-7-1

電話03(3240)8111(代表)

URL : <http://www.mufg.jp/>

株式に関するお手続きについてご不明な点などがございましたら、以下の株主名簿管理人の連絡先にお問い合わせください。  
三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部テレホンセンター  
電話:0120-232-711(通話料無料)  
(受付時間 土・日・祝祭日を除く9:00~17:00)

2016年6月発行

本誌はFSC® 認証紙、植物油インキを使用しています。

